臨牀透析 ●総目次
第 37 巻
Vol.37 No.1〜No.13
（2021 年 1 月号〜12 月号）

◉特　集

《特集一覧》

1 月号　腎性貧血治療のこれまでと，その新しい展開
2 月号　感染症と医療安全
3 月号　透析看護分野の看護師の認定・研修制度と社会から求められるもの
4 月号　透析の開始・継続・見合わせ
5 月号　ダイアライザ・ダイアフィルタの今後を考える
6 月号　看過してはならない不整脈
7 月号　CKD 診療におけるビタミンと微量元素
8 月号　透析医療における災害対策
8 月増刊号　透析患者の消化管疾患 A to Z
9 月号　CKD・透析患者の最近の知見による体液管理
10 月号　シームレスな CKD 対策に向けての看護実践
11 月号　CKD・透析患者の栄養指導方法と実践
12 月号　透析医療システムの将来と医師の働き方改革

■1 月号（vol.37 no.1）　腎性貧血治療のこれまでと，その新しい展開

腎性貧血治療において赤血球増殖を目的に使用される薬剤
鈴木　正司　4
1. 腎性貧血治療の歴史
鈴木　正司　7〜12
2. 腎性貧血の発症機序
宮崎真理子・宮内健一郎
佐藤　浩司・鈴木　教郎　13〜18
3. 低酸素と低酸素誘導因子（HIF）によるエリスロポエチンの産生調節と腎性貧血
安倍　寛子・田中　哲洋　19〜24
4. これまでの腎性貧血治療
（1）ESA による腎性貧血治療
鶴屋　和彦　25〜32
（2）腎性貧血における鉄の課題
濱野　高行　33〜40
（3）腎性貧血治療の課題
a. 保存期 CKD での課題
平林　千尋・丸山　之雄
山本　裕康　41〜46
b. 透析期での課題
朝比奈悠太・土井　洋平
坂口　悠介・貝森　淳哉
猪阪　善隆　47〜52
（4）ESA による貧血以外への治療効果
中野　敏昭・平方　秀樹　53〜59
（5）栄養障害から見た CKD 患者の貧血
小船　雅義・堀口　拓人
井山　　論　60〜64
5. HIF 分解酵素阻害薬による腎性貧血治療
秋澤　忠男・渡辺　　誠　65〜70
6. HIF 分解酵素阻害薬の腎保護効果と懸念
深水　　圭　71〜76
7. HIF 分解酵素阻害薬と他薬剤との相互作用
古久保　拓　77〜84
［コラム］
・腎移植における HIF 分解酵素阻害薬
西　　慎一　85〜87

■2 月号（vol.37 no.2）　感染症と医療安全

患者への感染対策の基本　108
1. 透析患者に対する基本的な感染対策
矢野　邦夫　111〜116
2. 感染防止に必要な透析看護
横井さおり・佐藤　久光　117〜122
3. 感染防止に必要な透析装置の環境整備

2026/09/17 11:25:57

山下　芳久　123〜129
4. 感染症別の対策
(1) インフルエンザ
安藤　亮一　131〜139
(2) 肝炎ウイルス
洞　　和彦　140〜145
(3) 麻疹および水痘ウイルス
石垣さやか・加藤　明彦　146〜152
(4) ヒト免疫不全ウイルス（HIV）
日ノ下文彦　153〜159
(5) ノロウイルス
大西　健児　160〜165
(6) 新型コロナウイルス感染症―最新の動向
菊地　　勘　166〜174
(7) 多剤耐性菌および *Clostridioides difficile*（CD）
朝野　和典　175〜180
(8) 結　　核
高森　幹雄　181〜190
(9) 疥　　癬
石井　則久　191〜194
［コラム］
・国際標準の標準予防策―透析室での手指衛生と環境整備
渋谷　祐子　195〜196
・手指衛生のモニター，実施率の測定，フィードバック
小松　康宏　197〜198

■3月号（vol.37 no.3）透析看護分野の看護師の認定・研修制度と社会から求められるもの

腎領域における認定・研修制度
三村　洋美　216
1. 看護職に対するスペシャリスト教育の方向性
斉藤しのぶ　219〜223
2. 看護師の継続教育と資格認定制度
荒木　暁子　225〜230
3. さまざまな研修制度の概説と期待される役割
大坪みはる　231〜236
4. 認定・研修制度の目指すもの
(1) 腎臓病領域を専門とした専門看護師の社会的ニーズとその活動
岡　美智代・麓　　真一
高橋さつき・松本　光寛　237〜242
(2) 腎不全看護認定看護師教育の概要と新たな役割
多久和善子　243〜248
(3) 学会認定看護師教育の現状と展望
阿部　利恵・三村　洋美　249〜254
(4) 多職種を対象とした認定制度の現状と展望
水内　恵子　255〜260
(5) 診療看護師教育と透析看護
山西　文子　261〜268
5. 実践報告
(1) 慢性疾患看護専門看護師の透析分野での役割と実践
西川　沙織・中村　雅美　269〜273
(2) 透析看護認定看護師の役割と実践
木村　　剛　275〜280
(3) 慢性腎臓病療養指導看護師の役割と実践
高橋　妙子　281〜286
(4) 腎臓病療養指導士を取得した看護師の役割と実践
松木　理浩　287〜292

■4月号（vol.37 no.4）透析の開始・継続・見合わせ

透析見合わせの対応ポイント
伊丹　儀友　312
1.「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」の意義
岡田　一義　315〜318
2.「透析の開始と継続に関する意思決定プロセスについての提言」の意義
―倫理的視点からの検討
会田　薫子　319〜324
3. 透析導入前の意思決定のあり方
―インフォームド・コンセント，共同意思決定（SDM），患者参加型医療の視点から
小松　康宏　325〜331
4. 透析前の共同意思決定（SDM）のあり方
内田　明子　333〜338
5. 透析前に透析を拒否する患者にどう対応するか？
濱田千江子　339〜344
6. 透析継続中止における共同意思決定（SDM）のあり方
石田　真理　345〜349
7. 認知症，うつ病を背景として透析継続中止を求める患者にどう対応するか
西村　勝治　351〜356
8. 事前指示書をどう進めるか
―当院における事前指示書への取り組みを踏まえて
植木　秀一・丸山　祐子

2026/09/17 11:25:57

舩越　哲　357〜363
9. 保存的腎臓療法をどう進めるか
酒井　謙　365〜370
10. 透析困難症例における透析見合わせ
丸田麻莉絵・丸山　祐子
舩越　哲　371〜376
11. グリーフケアはどうあるべきか
三浦　靖彦　377〜383
［コラム］
・DNAR について
花房　規男　385〜386

■5月号（vol.37 no.5） ダイアライザ・ダイアフィルタの今後を考える

血液浄化器の機能分類
山下　芳久　412
1. ダイアライザ・ダイアフィルタの歴史と今後の展望
峰島三千男　415〜424
2. 海外とわが国のダイアライザ・ダイアフィルタの比較
山下　明泰　425〜430
3. Pro-Con debate：ダイアライザ・ダイアフィルタでアルブミン漏出は必要か
（1）Moderator's view：血液透析におけるアルブミンのもつ意義
花房　規男　431〜434
（2）Pro：血液透析・血液透析濾過ではアルブミン漏出は必要である
櫻井　健治　435〜439
（3）Con：血液透析・血液透析濾過ではアルブミン漏出をできるかぎり少なくするべきである
阿部　雅紀　441〜448
4. 21 世紀における生体適合性とは
小久保謙一　449〜454
5. 血液浄化膜における吸着の意義
友　雅司　455〜459
6. 小分子蛋白の効率よい除去
―アルブミンと α_1-MG の除去特性
長沼　俊秀・武本　佳昭　461〜466
7. 治療法（HD，HDF）からみた血液浄化器の使い分け
島　久登・道脇　宏行
水口　潤　467〜471
8. 治療のスケジュール（長時間透析，頻回透析）からみた血液浄化器の使い分け
前田　兼徳・前田　由紀　473〜479
9. 有用な水溶性小分子をいかに保持するか
下門　清志　481〜484
10. Patient-reported outcome を基にした血液浄化器の選択
政金　生人　485〜490
［コラム］
・高齢者に適したダイアライザとは
長尾　尋智・神崎　将克　491〜493
・小児における血液透析関連機器の選択
石塚喜世伸・三浦健一郎
服部　元史　494〜496

■6月号（vol.37 no.6） 看過してはならない不整脈

用語解説―$CHADS_2$ スコアと CHA_2DS_2-VASc スコア
鈴木　正司　516
1. 透析患者の不整脈診療はなぜ大事なのですか？
長谷　弘記　519〜524
2. わが国の透析患者でも突然死は多いのですか？
冷牟田浩人・中野　敏昭　525〜530
3. 心臓突然死の原因はすべて致死性心室性不整脈なのですか？
吉田　衣江・髙橋　延行　533〜536
4. 心電図の QT 時間が長いとどうして問題なのですか？
藤﨑毅一郎　537〜542
5. どういう工夫をしたら致死性不整脈や心臓突然死を減らせますか？
石井　秀樹　543〜548
6. 透析患者に対する植込み型除細動器（ICD）の適応は何でしょうか？
野呂　眞人　549〜556
7. 透析患者に心房細動は多いのですか？
赤尾　昌治　557〜562
8. 心房細動に対しては，抗凝固薬を使ってはいけないのですか？
鶴屋　和彦　563〜571
9. 心房細動に対しては，レートコントロールとリズムコントロールのどちらを優先すればいいですか？
篠原　正哉・池田　隆徳　573〜579
10. どういう工夫をしたら心房細動を減らせますか？
河野　圭志・藤井　秀毅　587〜593
［コラム］
・突然死と心臓突然死は何が違うのですか？
田中　友里　531〜532
・アブレーションってどんな人が適応ですか？ ―HD-AF 患者の適応に

2026/09/17 11:25:57

関して
山根　禎一　581〜583
・経皮的左心耳閉鎖術って何ですか？透析患者にも適応になりますか？
原　英彦　584〜586
・透析液K濃度と不整脈とは関連がありますか？
坂口　悠介　595〜598

■7月号（vol.37 no.7）CKD診療におけるビタミンと微量元素

成人におけるビタミンと微量元素の推定平均必要量と推奨量
加藤　明彦　620
1. CKD診療におけるビタミン・微量元素の現況
加藤　明彦　623〜631
2. 各ビタミン・微量元素の現況
(1) 水溶性ビタミン類
長井　美穂・菅野　義彦　633〜640
(2) ビタミンD
溝渕　正英・小岩　文彦　641〜647
(3) ビタミンK
花房　規男　649〜654
(4) 鉄代謝
倉賀野隆裕　655〜660
(5) 亜鉛および銅代謝
中村　奈央・深水　圭　661〜666
(6) セレン欠乏症
脇野　修　667〜675
(7) モリブデン，マンガン，ヨウ素，クロム
宮本　哲　676〜680
(8) 認知症と微量元素
渡邊　一樹・宮嶋　裕明　681〜686
(9) リン吸着薬としてのランタン
髙塚　泰輔・大矢　昌樹
重松　隆　687〜692
(10) 高カリウム血症改善薬としてのジルコニウム
山田　将平・市川　大介　693〜697
［コラム］
・粉末透析剤と微量元素（珪素：Si）
山下　芳久　698〜699
・CKD診療とアルミニウム代謝
山谷　金光・鈴木　唯司　700

■8月号（vol.37 no.8）透析医療における災害対策

ハザードマップの活用
原田　孝司　724
1. 透析室災害対策の新たな方向性について
赤塚東司雄　727〜736
2. 大規模地震・津波
宮崎真理子　737〜742
3. 北海道胆振東部地震における大規模停電の経験
真下　泰・髙根　麻央
斉藤　徳　743〜752
4. 豪　雪
甲田　亮・土田　雅史
宮崎　慧・吉澤　優太
飯野　則昭・成田　一衛　753〜757
5. 大型台風・豪雨－2018年西日本豪雨における透析被害とその対応
村上　和春　759〜763
6. 放射線災害
(1) 福島第一原子力発電所事故の教訓を活かす
井山　慶大・長谷川有史　765〜771
(2) 透析患者への影響
川口　洋　772〜776
7. 都市型災害
花房　規男　777〜782
8. 南海トラフ地震が抱える現状とその課題
是枝　大輔　783〜788
9. 火山災害
山川　智之　789〜794
10. 日本透析医会災害時情報ネットワーク
安藤　亮一・山川　智之　795〜800
11. 日本災害時透析医療協働支援チーム（JHAT）
森上　辰哉　801〜806
12. 災害派遣医療チーム（DMAT）
小井土雄一　807〜814
13. 長期避難生活における合併症予防
榛沢　和彦　815〜824
［コラム］
・災害時におけるPD治療の有用性
中山　昌明　825〜826
・災害時の食支援
市川　和子　827〜830

■8月増刊号（vol.37 no.9）透析患者の消化管疾患 A to Z

序　文
花房　規男　847〜848
総　論
(1) 食欲低下
磯部　伸介　856〜860
(2) 悪心・嘔吐

2026/09/17 11:25:57

西野　隆義　861〜868
(3) 下痢・便秘
富田　寿彦・三輪　洋人　869〜876
(4) 急性腹症
新宅　究典・佐藤　友保
川西　秀樹　877〜880
(5) 消化管出血
福原佳代子・緒方　晴彦　881〜886
(6) CT・MRI・超音波検査
和田　慎司・水沼　仁孝　887〜894
(7) 上部消化管内視鏡検査と治療
細江　直樹・林　由紀恵
リンピアス神谷研次・高林　馨
緒方　晴彦・金井　隆典　895〜899
(8) 下部消化管内視鏡検査と治療
水上　博喜・田中　淳一　900〜904
(9) 小腸内視鏡検査と治療
宮原　晶子・矢野　智則
山本　博徳　905〜911
(10) 消化管手術周術期管理
久木田和丘・堀江　卓
小野寺一彦・目黒　順一
米川　元樹・沼澤　理絵　912〜917
(11) 栄養療法
加藤　明彦　918〜923
(12) 開腹手術，低侵襲手術
高山　哲郎・阿佐美健吾
熊田　博之・芳賀　泉　924〜929
(13) アルゴンプラズマ凝固
小林　卓真・矢野　智則　930〜932
各　論
1. 全消化管にみられる疾患・徴候
(1) 消化管穿孔
堀　誠司・室谷　典義　934〜936
(2) 消化管運動機能異常・吸収不良症候群
眞部　紀明・綾木　麻紀
中村　純・藤田　穣
畠　二郎・春間　賢　937〜940
(3) 消化管の感染症
清水　誠治　941〜944
(4) 異物誤飲
石川　秀樹　945〜948
2. 全身疾患に伴う疾患
(1) 消化管アミロイドーシス
池田　修一　949〜954
(2) 血 管 炎
鳥巣　剛弘・川崎　啓祐　955〜958
(3) 消化管リンパ腫
岡田　裕之　959〜962
3. 口　腔
(1) 口腔機能低下症・味覚障害
柏崎　晴彦　963〜966
(2) 歯 周 病
稲垣　幸司　967〜974
(3) 顎骨壊死
岩本　潤　975〜976
(4) 口腔内悪性腫瘍
田中　彰　977〜980
4. 食　道
(1) 食 道 癌
小田島慎也　981〜986
(2) 胃食道逆流症
本郷　道夫　987〜989
(3) 透析症例における食道・胃静脈瘤
矢崎　康幸・河野　優子
佐藤　雄太　990〜993
5. 胃・十二指腸
(1) 胃　癌
飛田恵美子・古川　和宏
角嶋　直美・古根　聡
中村　正直・藤城　光弘　994〜997
(2) 消化性潰瘍・出血
鎌田　智有　998〜1002
(3) 胃前庭部毛細血管拡張症（GAVE）
土生　亜実・恩田　毅
貝瀬　満　1003〜1005
(4) 機能性ディスペプシア
大島　忠之・三輪　洋人　1006〜1009
(5) *Helicobacter pylori* 感染症
原武　大介・小林　知貴
長澤　佳郎・西澤　欣子
山下　和臣・伊藤　公訓　1010〜1012
(6) 消化管間質腫瘍（GIST）
杉山　敏郎　1013〜1016
6. 小腸・大腸，肛門
(1) イレウス
安達　洋祐　1017〜1020
(2) 非閉塞性腸間膜虚血（NOMI）・虚血性腸炎
鈴木　修司・下田　貢
島崎　二郎・大城　幸雄　1021〜1024
(3) 炎症性腸疾患
清原　裕貴・金井　隆典　1025〜1028
(4) 過敏性腸症候群
三澤　昇・高津　智弘
吉原　努・芦苅　圭一
大久保秀則・日暮　琢磨
中島　淳　1029〜1032
(5) 短腸症候群
小山　諭　1033〜1036
(6) 虫 垂 炎
吉田　篤史　1037〜1040
(7) 大 腸 癌
服部　優宏・木井　修平
谷山　宣之・佐藤　正法

2026/09/17 11:25:57

後藤　順一・高橋　宏明　1041〜1047
(8) 大腸憩室症・憩室炎
藤森　俊二・濱窪　亮平
大森　　順・貝瀬　　満
岩切　勝彦　1048〜1051
(9) 直腸・肛門疾患
福島　慶久・松田　圭二
端山　　軍・野澤慶次郎
橋口陽二郎　1052〜1056
7. 腹腔・腹壁
(1) 細菌性腹膜炎
安永　親生・吉松　正憲
宮崎　雄幸・吉屋　圭史　1057〜1063
(2) 腹膜播種・癌性腹膜炎
小峯　弓子・吉田俊太郎
藤城　光弘・小池　和彦　1064〜1066
(3) 被嚢性腹膜硬化症（EPS）
花房　規男・塚田三佐緒
土谷　　健　1067〜1069
(4) ヘルニア
番匠谷将孝・川西　秀樹　1070〜1073

■9月号（vol.37 no.10） CKD・透析患者の最近の知見による体液管理

本特集の読み方ガイド
中山　昌明　1084
1. 体液調節機構とその異常
小松　康宏　1087〜1092
2. 生体の Na・水調節機構の新知見
北田　研人・西山　　成　1093〜1100
3. CKD・透析患者における体液過剰の病態
中山　昌明　1101〜1107
4. 体液過剰の疫学（国内外）・患者予後
(1) 慢性腎臓病
磯﨑　雄大・和田　健彦
深川　雅史　1109〜1114
(2) 血液透析患者における体液過剰と血圧について―疫学を中心として
梶谷　英人・西脇　宏樹　1115〜1121
(3) 腹膜透析・併用療法
嵯峨﨑　誠・丸山　之雄　1122〜1126
5. 体液状態の評価・測定法
(1) 生体電気インピーダンス法
大橋　　靖・吉田　規人
髙橋　　禎・日高　　舞
石井　信伍・山﨑　恵介　1127〜1134
(2) 血液サロゲートマーカー・エコー検査
常喜　信彦　1135〜1140
(3) 尿酸法による体液状態の評価
新里　高弘　1141〜1147
(4) 塩分摂取量の評価方法
永田総一朗・加藤　明彦　1148〜1153
(5) ^{23}Na–MRI による組織 Na 濃度評価法
森　　建文　1154〜1158
6. 治療と対策（CKD と透析）
(1) 減塩指導
栁　　麻衣　1159〜1164
(2) 口渇感
玉垣　圭一・井田　智治
八木　　彩・三原　　悠　1165〜1171
(3) 利尿薬
金　　恒秀・水野　正司　1172〜1176
(4) 透析方法と透析液 Na 濃度―血液透析
鈴木　一裕　1177〜1182
(5) 透析方法と透析液 Na 濃度―腹膜透析
丹野　有道　1183〜1189
［コラム］
・新しいバイオインピーダンス法
渡邉　公雄　1190〜1191

■10月号（vol.37 no.11） シームレスな CKD 対策に向けての看護実践

CKD ステージ別患者の看護目標概要
中原　宣子　1204
企画に当たって
中原　宣子　1207
1. CKD 進展予防から RRT 導入まで
(1) 看護実践の考え方
中村　雅美　1209〜1214
(2) 看護の役割
内田　明子　1215〜1220
(3) 看護体制づくり
松木　理浩　1221〜1226
2. CKD 進展予防から RRT 導入までの患者支援
(1) 非高齢者への看護実践―成人期にある CKD 患者に対するシームレスなチームアプローチによる支援
能美亜紀子　1227〜1232
(2) 高齢者への看護実践
黒田　沙織　1233〜1237
(3) 超高齢者への看護実践
不動寺美紀　1238〜1243
(4) 患者家族への看護実践
中村　理恵・山内　美希　1244〜1248
(5) 糖尿病患者への看護実践
今井　早良・中田　由紀
長谷川友紀　1249〜1254

2026/09/17 11:25:57

(6) CKD 対策における自己効力理論を用いた看護介入
鈴木　幹子　1255〜1260
3. CKD 進展予防に向けての保健師の活動
加澤　佳奈・要田　弥生　1261〜1266
4. CKD 進展予防から RRT 導入までの看護実践
(1) 外来教育
徳元しのぶ　1267〜1272
(2) 教育入院
片村　幸代・櫻井　律子　1273〜1280
5. CKD 進展予防に向けての訪問看護活動―在宅療養高齢者への確実な投薬を支援する取組み
住友　明美　1281〜1284
6. 市民公開講座の開催における看護師の役割―CKD の啓発活動とその効果
鈴木　智恵　1285〜1289
［コラム］
・CKD 進展予防の効果的な介入―文献レビューから見えること
小坂　志保　1290〜1292

■11 月号（vol.37 no.12） CKD・透析患者の栄養指導方法と実践

1. 腎疾患患者の栄養指導とは？
(1) 栄養指導や栄養管理を行う際の診療報酬上の栄養指導の分類
齋藤かしこ　1319〜1323
(2) 保存期・透析期 CKD 患者における食事・栄養療法の問題点
加藤　明彦　1324〜1333
(3) 栄養アセスメント法
瀬戸　由美・鈴木　慎二　1334〜1340
2. 栄養指導
(1) 腎臓病療養指導士による栄養指導への期待
要　伸也　1341〜1344
(2) 腎臓病病態栄養専門管理栄養士の展望
市川　和子　1347〜1352
(3) CKD・透析患者に対するガイドラインでの栄養推奨事項
和田　貴彦・菅野　義彦　1353〜1358
3. 栄養指導実践―保存期 CKD の栄養指導
(1) 個人指導と集団指導
川畑　奈緒　1361〜1368
(2) 腎代替療法導入時の栄養指導
北林　紘　1369〜1374
4. 栄養指導実践―透析療法慢性期の栄養指導
(1) 個人栄養指導（テーラーメイド）
納富　智子・北村　峰昭
原田　孝司・船越　哲　1375〜1380
(2) 集団栄養指導（食事会含む）
黒住　順子　1381〜1387
5. 栄養指導実践―腎移植患者の栄養指導
森岡　優子・吉田　朋子　1389〜1394
6. 栄養連携
(1) IT 等を用いた栄養指導
岩田康太郎・朝倉　洋平
白澤　祐一　1395〜1401
(2) 栄養情報提供書作成
橋本　誠子　1405〜1411
おもな栄養補助食品の栄養成分表
市川　和子・藤林　真由　1412〜1413
［コラム］
・食事の摂取量調査（評価）―日本食品成分表 2020 年版（八訂）も含めて
川手　由香　1345〜1346
・便秘解消のための食事
小松　康宏　1359〜1360
・在宅血液透析に食事指導は必要なのか？
政金　生人　1402〜1403

■12 月号（vol.37 no.13） 透析医療システムの将来と医師の働き方改革

本特集の意図―透析医療，変革の時期
中山　昌明　1436
1. 働き方改革
(1) 医師の働き方改革とは何か
遠藤　久夫　1439〜1445
(2) 医師の働き方改革―聖路加国際病院の経験から
藤川　葵・山内　英子　1446〜1456
(3) 働き方改革を踏まえた将来の透析医療―地域包括ケアシステムの利用と AI，IoT，ロボット工学の可能性
中元　秀友・青柳龍太郎
鈴木　康大・熊川　友子
松井　拓也・小林　威仁
廣岡　伸隆　1457〜1469
2. 男女共同参画の取り組み
(1) 女性医師の課題と解決
森　典子　1471〜1475
(2) 女性医師と透析医療
森石みさき　1476〜1482
3. タスクシフト

2026/09/17 11:25:57

(1) 医師の診療体制
本田　浩一　1483〜1486
(2) 看護師の診療範囲
佐藤　久光　1487〜1491
(3) 臨床工学技士の役割
山下　芳久　1492〜1496
4. 透析業務の管理（安全担保）
(1) 透析室管理の課題と解決
井手　真澄・舩越　哲　1497〜1501
(2) AI による透析室管理の具体
大原　利章　1502〜1506
(3) AI を用いた透析患者管理の可能性
井上　宏子・相澤　昌史
淺沼　克彦　1507〜1511
5. 透析医療の効率化デザイン
(1) 日本透析医学会統計調査と医療の効率化
土谷　健・川口　祐輝　1513〜1519
(2) 診療報酬ビッグデータと医療の効率化
山本　博之　1520〜1525
(3) 医療の質改善と業務効率化
小松　康宏　1526〜1531
［コラム］
・米国における働き方改革
山内　英子　1532〜1533

◉OPINION

1 月号（vol.37 no.1）
コロナ禍のなかの医療者
中山　昌明　5〜6
2 月号（vol.37 no.2）
国勢調査と大規模データベース
丸山　之雄　109〜110
3 月号（vol.37 no.3）
高齢化時代に想う ― 老い楽に生きる
日ノ下文彦　217〜218
4 月号（vol.37 no.4）
Web 配信と学会カルチャー
長田　道夫　313〜314
5 月号（vol.37 no.5）
塩はカラダに蓄積してきます
西山　成　413〜414
6 月号（vol.37 no.6）
透析導入原疾患について思うこと
長谷川　元　517〜518
7 月号（vol.37 no.7）
“当たり前”の医療 ― 病院の役割と，腎臓内科医の役割
髙野　秀樹　621〜622
8 月号（vol.37 no.8）
統合電子カルテの実現に向けて
森　典子　725〜726
9 月号（vol.37 no.10）
歴史は繰り返すか
藤乗　嗣泰　1085〜1086
10 月号（vol.37 no.11）
鏡の中でアリスは歌う
風間順一郎　1205〜1206
11 月号（vol.37 no.12）
オンラインで伝わるもの，伝わらないもの
本田　一穂　1317〜1318
12 月号（vol.37 no.13）
記憶力が低下する歳になって考える医師の価値 ―“なぜかと考える”ことの重要性
宮崎　正信　1437〜1438

◉症例による透析患者の画像診断

1 月号（vol.37 no.1）
アルコール性肝硬変と末期腎不全をもち，骨折を繰り返した後に骨形態計測を行い，治療法を変更した症例
田口　周平・渡邉　駿
水野　裕基・乳原　善文　97〜102
2 月号（vol.37 no.2）
上腸間膜静脈気腫症を生じ，保存的に改善を認めた腹膜透析患者の１例
山田　将平・関　来未
小板橋賢一郎・櫻田　勉
柴垣　有吾　205〜209
3 月号（vol.37 no.3）
腹膜透析導入時に発症した横隔膜交通症において外科的治療で腹膜透析を継続しえた１例
江川　雅博・伊藤　孝史　301〜305
4 月号（vol.37 no.4）
クラミドフィラ肺炎を契機に透析導入となり COVID-19 肺炎との鑑別を要した末期腎不全の１例
林　綾香・藤丸　拓也
濱田　隆行・嶋田　啓基
渡邉　公雄・伊藤　雄伍
長浜　正彦・瀧　史香
中山　昌明　394〜398
5 月号（vol.37 no.5）
心内血栓による上腕動脈血栓塞栓症で

2026/09/17 11:25:57

シャント閉塞を認めた1例
大野　和寿・菅生　太朗
村上　琢也・阿久津博彦
佐藤　弘隆・秋元　　哲
齋藤　　修・長田　太助　505〜509

6月号（vol.37 no.6）
結核性胸膜炎を併発した透析患者の1例
江川　雅博・伊藤　孝史　605〜610

8月号（vol.37 no.8）
フルニエ壊疽を発症した血液透析患者の1例
浜田　隆行・伊藤　雄伍
林　　綾香・嶋田　啓基
渡邉　公雄・藤丸　拓也
長浜　正彦・瀧　　史香
中山　昌明　837〜841

11月号（vol.37 no.12）
CT検査が診断に有用であったものの，末期腎不全に至った活動性尿路結核の1例
大野　和寿・平田　真美
神永　洋彰・吉澤　寛道
今井　利美・秋元　　哲
齋藤　　修・長田　太助　1415〜1419

◉ケース・スタディ

1月号（vol.37 no.1）
下腿浮腫と体重増加を呈し精査入院となった生体腎移植後患者の1例
鈴木　泰平・森川　友喜
佐藤　　望・神林　由衣
吉武　　理・本田　浩一　89〜95

2月号（vol.37 no.2）
高血圧緊急症に伴う急性腎不全に対して透析を行い，離脱し得た1例
坂本　絵美・知念美里亜
野口はるか・鈴木美香子
近藤　　勲・新倉　崇仁
鈴木みなみ・新井　洋平
片桐　大輔・日ノ下文彦　199〜204

3月号（vol.37 no.3）
嘔吐・下痢と意識障害を呈した急性腎障害の1例
吉川　和寛・菊池　　調
松浦　佑樹・野田　晴也
佐藤　直幸・田中　文隆
旭　　浩一　293〜300

4月号（vol.37 no.4）
急性腹症をきたした腹膜透析患者の1例
櫻井　義大・古谷麻衣子
倉重　眞大・丹野　有道　387〜393

5月号（vol.37 no.5）
溶血性貧血で発症し，急性腎障害を合併した1例
越野　昌子・野畑　宏信
伊藤　恭彦　497〜504

6月号（vol.37 no.6）
骨肉腫に対する術前化学療法後に発症した急性腎障害の1例
國正　　靖・眞鍋　雅人
志賀　崇史・大西　啓右
尾崎　太郎・祖父江　理
若林　誉幸・日下　　隆
南野　哲男　599〜604

7月号（vol.37 no.7）
突然の背部痛と下肢麻痺を認めた維持血液透析患者の1例
千葉　祐貴・藤倉　恵美
福士　泰夫・小野田祥人
久志本成樹・宮崎真理子　701〜708

10月号（vol.37 no.11）
透析で除水に難渋した重症心不全の1例
藪下紗耶香・阿佐美匡彦
塚田　弘之・古瀬　　智
田中　　旬・青木　二郎
田邊　健吾・三瀬　直文　1293〜1298

◉話題・論点

7月号（vol.37 no.7）
新型コロナウイルス感染症
サイトカイン制御の試み（薬物療法）
片桐　大輔　713〜717

8月号（vol.37 no.8）
新型コロナウイルス感染症
サイトカイン制御の試み（血液浄化療法）
片桐　大輔　831〜836

10月号（vol.37 no.11）
新型コロナウイルス感染症
―病院クラスターと透析室の対応
笠井　健司・後藤　博一
柏木　秀幸　1299〜1304

11月号（vol.37 no.12）
新型コロナウイルス感染症
―院内感染防御を目指した院内体制

2026/09/17 11:25:57

中村　麻美・舩越　　哲　1421〜1424

◉研究・報告

4 月号（vol.37 no.4）
〔臨床工学〕12 年間 RO 水の高度清浄化を維持できた RO 膜の性状分析
―新しい RO 膜性状分析法を用いて
佐々木敏作・辻　　大輔
守屋　椋伍・松井　克将
丸山　禎之・和田　　茂　399〜405

◉CKD 患者に推奨されるワクチン接種

6 月号（vol.37 no.6）
末期腎不全・透析患者に対するワクチン接種
矢野　邦夫　611〜614
7 月号（vol.37 no.7）
腎移植患者に対するワクチン接種
磯部　伸介　709〜712
9 月号（vol.37 no.10）
インフルエンザワクチン
安藤　亮一　1193〜1196
10 月号（vol.37 no.11）
おたふくかぜ・三種混合ワクチン
藤倉　知行　1305〜1308
11 月号（vol.37 no.12）
麻疹・風疹ウイルス
石垣さやか　1425〜1429

本誌の本年 1 年間の編集委員，編集協力者は以下のとおりです．また，本誌の刊行にあたりご協力いただきました皆様に深く感謝申しあげます．〔(株) 日本メディカルセンター〕

■編集委員
鈴木　正司　　原田　孝司　　秋葉　　隆　　伊丹　儀友　　小松　康宏　　西　　慎一
中山　昌明　　加藤　明彦　　花房　規男　　下山　節子　　水附　裕子　　佐藤　久光
中原　宣子　　三村　洋美　　市川　和子　　齋藤かしこ　　峰島三千男　　山下　芳久

■編集顧問
川口　良人　　浅野　　泰　　宇田　有希　（敬称略）

■創刊以来ご尽力いただいた歴代編集委員
前田　貞亮（故人）　　黒川　　清　　佐藤喜一郎　　中川成之輔（故人）
酒井　　糾（故人）　　大平　整爾（故人）　　平澤　由平*（故人）
春木　繁一*（故人）　　落合　福江　　吉岡　　典　　足立　悦子　　臼井　昭子
安西志保子　　川崎　忠行　　赤間　立枝　（敬称略，*：特別編集委員）

2026/09/17 11:25:57